

母校が創立100周年を迎えました。 建替えられる体育館をシンボルとして、 記念事業を実施します。 共にお祝いしましょう。



牧陵会会長 池田 加津男

本年はコロナ禍の影響も薄れて来て、3年ぶりに母校入学式に牧陵会会長として参列して、高校78期入学生にお祝いの言葉を贈ることができました。

また、メモリアル同期会として、73期生が成人式を記念する会、68期生が卒業後5年、及び44期生が卒業後30年の会を開き、牧陵会から支援金をお渡しし役員が出席して牧陵会との連携を図るよう努めました。

このように日々の活動が平常化する中で、母校が創立100周年を迎えました。

学校、後援三徳会、及び牧陵会で構成される「横浜緑ヶ丘高等学校100周年事業委員会」が企画準備を進める中で、念願であった体育館の改築について、神奈川県により建替え計画が進められ、柔剣道場なども組み込み、現体育館の2倍の規模に建て替える計画が立てられました。新体育館は本年度に入り着工し、供用開始が令和6年秋と見込まれます。

上記委員では新しい体育館を100周年のシンボルに位置付け、記念式典の会場とし、主要事業を令和6年度に実施することとしています。100周年の今年は100周年を迎えたことの周知に努め、後にも触れますが、募金など記念の事業を実施するとともに、翌年度の記念式典開催、記念誌の発行、記念イベントの実施などの企画準備を行います。

毎年入学してくる生徒が先生方のご指導をいただき歴史を積み上げて来て100年を数えました。記念式典など主要事業は、緑高の在校生、先生方を中心に進められるところですが、卒業生にとっても記念となり、お祝いをする大きな節目です。

それぞれの年代、或いは年代を超えた部活動のOB・OG会など様々なグループが100周年をきっかけとして学年全体の同期会を開催し、或いはOB・OG会を開催することなどが見込まれます。また、コンサート、絵画展などを定期的に実施しているグループも、100周年協賛事業として開催する計画でいます。

100周年というのはこのように大きな喜びの機会であり、牧陵会にとって大きな求心力ともなります。

そして、お祝いの意を込めた記念の募金のご案内をしています。

大規模体育館に見合う備品など教育環境の整備のため、また、記念誌の発行などに充てるため、5千万円を目標に募金を行います。記念の取り組みに参加し、お祝いをするということであり、是非ともご協力をお願いします。

本年度は、今まで申し上げたこととともに、通常の一環を行いますので、宜しくをお願いします。

なお、緑高食堂に関しまして、60年近くに渡り運営頂いた今関さんに改めて感謝を申し上げます。

母校より

校長 秋山 晶子



令和5年度が始まりました。今年は創立100周年にあたり、学校としても大切な節目となる年です。100年という長い歴史を支えてくださった卒業生の皆様に深く感謝申し上げます。行事や式典の際にはもちろん、いつも緑高に高い関心をお寄せいただき、また折々に多大なるご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。在校している生徒は高校76期～78期の生徒になり、活気あふれる活動が生徒中心に展開されている様子は以前と変わらず、歴史がしっかりと受け継がれていることを感じます。探究的な学びや、スーパーサイエンスハイスクールなどの、次の100年へ続く新たな取組も始まっています。

現在の状況としては、新型コロナウイルスの影響は少しずつ緩和されてきました。まず令和4年度卒業式は、来賓の皆様をご招待できませんでしたが、保護者1名の参加に限りご列席いただき、75期274名が無事に巣立っていきました。新型コロナウイルスの影響を最も強く受けた学年でしたが、卒業生代表の言葉には「この時期だからこそ緑高で得られた仲間力は大きかった」とかけがえのない高校生活に満足度は高かった様子です。令和5年度入学式は、牧陵会の池田会長と後援三徳会の加藤理事長ご臨席の下、生徒・教職員、ご家庭ごとに2名までの保護者の皆様と、78期の新入生277名を迎えました。

時差登校も短縮し、朝のホームルームを10分早めています。授業時間は通常通り50分です。部活動も感染予防対策をしつつ行い、公式戦や大会にも参加しています。春季休業中は合宿を行う部活動もありました。1年生もすっかり緑高になじんで、授業や部活動に参加しています。

昨年度、文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール」に指定され、2年目となりました。未来の担い手として、他者と協働して課題解決に導く科学的探究力を備えた人材の育成に取り組んでいます。学校設定教科「緑の探究」は1・2年生が学ぶこととなります。外部の機関との連携も図って、課題研究に取り組むとともに、すべての教科で探究的に学習します。課題研究と教科の学びを往還させることで「科学的思考力」を身に付け、課題を発見し、解決へ向かう「科学的探究力」を高めていきます。昨年度は釧路湿原の植生や保全に関するスタディツアーを行い、好評でした。今年も各種スタディツアーや研究施設見学、科学系の夏期講習などを計画中です。専門的な世界に直接ふれる貴重な機会となることでしょうか。各界でご活躍の諸先輩方のご協力を、ぜひお願いいたします。

また1・2年生は、ご家庭の協力で一人一台端末を用意いただき、授業で積極的に活用しようとしています。昨年度の1年生は将来の自分の姿を具体的に描き、夏の三者面談で保護者の方に自分の考えをプレゼンテーションしました。どの科目でも、より主体的に学習に取り組もうとする姿勢が求められており、思考力・判断力・表現力を育成すると同時に発信力や国際性も身に付け、本校のミッションである「広い視野を持ち、新たな価値を創造するリーダーの育成」の実現を図りたいと考えています。

いよいよ新たな体育館の建設も始まります。100周年と時を同じくして新しい体育館ができることは、よい記念として緑高に関わる人々の記憶に長くとどめられることでしょうか。安全に留意して工事を進めてまいります。これからも皆様の一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

● 緑高祭 開催

4年ぶりに入場制限のない緑高祭が、6月24日、25日に開催されました。体育館では毎年大人気の吹奏楽部をはじめ、ダンス部や軽音楽部、管弦楽部などの発表、野外ステージでは、カラオケやバンド演奏など、教室では、クラスごとに趣向を凝らした喫茶やお化け屋敷などの多彩な催しや、部活動の展示や発表が行われ、多くの来場者で賑わいました。

牧陵会も母校の創立100周年にちなみ、「歴史」に重点を置いた展示を行い、校舎の変遷や部活動の歴史、本牧が米軍に接収されていた頃の写真などを展示しました。来場者には卒業生の家族連れも多く、将来入学を希望している孫と一緒に来場した卒業生が、校舎が大きく変わったことに驚き、昔の校舎の写真を懐かしそうに眺めている姿がありました。今回の展示は、卒業生の高校時代の思い出を蘇らす良い機会となったようです。



▲緑高祭ポスター





令和5年度 牧陵会総会の報告

令和5年(2023年)6月3日(出)14:00から波止場会館にて牧陵会総会を開催いたしました。36名の出席をいただき、下記議題を審議し、承認されました。

【総会議題の概説】

- 第1号議案 令和4年度(2022年度)牧陵会活動報告について
- 第2号議案 令和4年度(2022年度)決算報告について
- 第3号議案 令和5年度(2023年度)活動方針及び活動計画について
- 第4号議案 令和5年度予算について
- 第5号議案 牧陵会役員の選任について

その他報告事項

- ・母校100周年事業の取り組みについて
- ・牧陵会ホームページリニューアルについて
- ・「牧陵会青年部」の取り組みについて

令和4年度決算・令和5年度予算

■ 収入の部 (単位:円)				
項目	令和4年度予算	令和4年度決算	増減	令和5年度予算
1. 会費	5,000,000	5,640,000	640,000	5,000,000
2. 入会金	840,000	825,000	▲15,000	840,000
3. 寄付金	2,400,000	3,628,600	1,228,600	2,400,000
4. 雑収入	1,928	17,030	15,102	31,181
単年度収入計	8,241,928	10,110,630	1,868,702	8,271,181
5. 前年度繰越金	2,168,072	2,168,072	0	2,568,819
6. 積立金取り崩し額	900,000	0	▲900,000	0
収入合計	11,310,000	12,278,702	968,702	10,840,000

■ 支出の部 (単位:円)				
項目	令和4年度予算	令和4年度決算	増減	令和5年度予算
1. 総務運営費	3,910,000	3,787,143	▲122,857	4,554,000
2. 会員活動費	510,000	280,440	▲229,560	510,000
3. 事業活動費	690,000	182,150	▲507,850	690,000
4. 広報費	4,700,000	4,352,448	▲347,552	4,740,000
5. 牧陵校史資料室運営費	260,000	18,963	▲241,037	160,000
6. 積立金	100,000	100,000	0	100,000
7. 予備費	900,000	988,739	88,739	50,000
単年度支出計	11,070,000	9,709,883	▲1,360,117	10,804,000
8. 次年度繰越金	240,000	2,568,819	2,328,819	36,000
支出合計	11,310,000	12,278,702	968,702	10,840,000

基金等特別会計の状況(令和5年3月31日現在)(単位:円)	
1. 牧陵会基金	10,791,427
2. 記念事業積立金	2,558,528
3. 活動維持積立金	4,573,084
4. 事務所差入保証金(新牧陵会事務所)	427,680
基金合計	18,350,719



【令和5年度予算編成上の留意点】

★緑高創立100周年を念頭に、広報活動の充実と牧陵会の活性化・財政健全化を図る予算を編成

◆収入の部

- ①会費は「プロジェクト2500」を継続実施して、会費の収入確保(目標2,500名)に取り組む。
- ②入会金・・・2024年3月卒業生数見込みによる。
- ③寄付金は前年実績並びに会費納入を勧奨して、800名×3,000円=2,400,000円を計上する。

◆支出の部(主な増減項目)

- ①事務局引継ぎのため、6か月間人件費は重複する。
1,584,000円計上(前年度+641,740円)
- ②各種活動復活・再開のため、コロナ前規模に予算復活を行う。
(総額単年度支出増+1,094,117円)
- ③事務所パソコン老朽化のため、入替購入を特別会計にて支出を計上する。(200,000円×3台=600,000円)

【総会での意見概要】

◆総会出席者から活発なご意見をご紹介します。今年度役員会にて検討課題といたします。

【総会時意見】※発言者氏名については、新聞での掲載は省略いたしましたのでご了承下さい

- ①「常磐町」の表記間違いを指摘、「常盤町」が正解⇒総会資料を修正して報告する
- ②100周年募金の案内の方法について
 - どのように周知するのか⇒6月中に住所判明の全会員に案内を郵送予定です
 - 牧陵会の予算計上がない⇒周年事業三者委員会にて予算計上行います
 - 募金の規模は⇒募金5,000万円目標
- ③パソコン購入60万円は高いのでは⇒3台で60万円として基金会計の計上を説明
- ④敬老同期会支援(古希・喜寿・米寿)の予算が2件分しかないのはなぜか⇒従来の実績を鑑み、過大な予算計上を避け半数の予算としている。対応はできる。
- ⑤100周年について期待をしている
- ⑥募金に対する熱意が感じられない、募金の勧誘を積極的に行うべき
 - 学年単位での寄附実績を周知する⇒ホームページにてリアルタイムに報告する(DX化)
 - 予算規模(三徳会1,500万円、募金5,000万円)を周知して必要性をアピールすべき
- ⑦90周年募金のご苦勞を話された。5,000万円の募金は実績からいって難しいのではないかと
 - よほどの苦勞をしないと難しいと思う。皆様のご協力をお願いしたい
- ⑧合唱団の状況について
 - 同好会として最近では演奏会をやるためとして外部からの人が入る形が多いので、楽しみとして入会している方から不満があるようだ
 - 家族の参加を認めるようなことはどうか⇒合唱団と協議して検討したい
- ⑨周年事業費の概略をお教え下さい⇒三徳会1,500万円、募金5,000万円の規模を想定している
- ⑩次期役員の選考委員会設置について⇒目的を持った委員会として今期立ち上げを検討したい
- ⑪90周年に係ったものとして100周年行事について協力をしたい
- ⑫新体育館の出来上がっていく過程を知らせる工夫はどうか、定点観測を行い、建築過程を記録してもらいたい(スカイツリーの建築のように)⇒記念誌委員会にて同種の企画をしており、記録を開始している

【今期役員会での課題としたいこと】

- ①100周年事業のアピール
 - 周年事業予算の公表、必要性のアピール、ゴールの明確化を図る
 - 集計・報告体系の明確化⇒DX化を図る
 - 募金体制の本格化、バナー広告提案等支援事業の現実化
 - 協力イベントの組織化、一本化を図る
 - 牧陵100周年委員会の組織化
- ②合唱団対応、校歌祭対応を検討していく
- ③次期役員指名委員会の立ち上げ

令和5年度 牧陵会活動方針

◆ウィズコロナ、恐れずに、ただし気を付けて

2023年度は、3年に渡り社会生活や学校生活に多大な影響を与えた新型コロナ感染もようやく規制解除の兆しが見え始め、警戒を行いながらも、徐々に以前の行事や同期会活動の復活・再開の計画を始めていく年度となると存じます。

更に、2023年の母校創立100周年、2024年の100周年記念式典に向けて、コロナ禍で推進できなかった「100周年事業委員会」の活動も再開してまいります。

また、昨年度からいままで参加のなかった若い期から「青年部」や「会員業種交流」の動きが活発化してきており、この実現に向けた施策に取り組んでまいりたいと存じます。

(1) 会員相互の交流、親睦の場を提供する事業

ウィルス感染の状況を見て交流の集いの検討を進め、今後の開催について検討を進めます。

- 令和5年度牧陵会総会の開催（総会后懇親会の再開）
- 第18回青春かながわ校歌祭への参加（現在25校参加表明）
- メモリアル同期会、通常同期会、同好会の開催奨励
- ホームカミングデイ「第21回牧陵・緑のフェスティバル」については、検討を行います。
- 2024年開催予定の新年の集いは今後のウィルス感染対策の進展を見ますが、開催する方向で検討します。
- 牧陵会事務所の活用

(2) 母校の発展に寄与する活動

徐々に母校の校内活動が復活・活性化しており、その状況に応じて支援を進めます。

- 学びの奨励基金の運営（運営協議会）
- 緑高祭の開催支援
- 生徒会誌「牧陵10号」の発行を支援し、牧陵新聞と共に会費納入会員へも送付します。
- 「緑高セミナー」を積極的に支援し、卒業生の紹介を努めます。
- その他部活動の支援など、在校生の活動を支援します。
- 母校の運営への参画

(3) 広報活動ほか本会の活動基盤の強化を図るための諸事業

- 牧陵新聞の発行
- ホームページリニューアルの開始、ネットやSNS利用による活動方法の検討
- 宛先不明会員の解消、会員の情報の整備
- 会費徴収方法の検討
- 新しい活動への取り組み、維持向上

(4) 学校創立100周年事業

創立100周年のメモリアルともなる体育館新設が着手されました。(2023年4月) 100周年事業委員会にて記念事業の準備を推進してまいります。

- 100周年記念募金の体制が整い、活動を開始いたします。
- 記念イベント、記念行事等の準備を開始いたします。
- ホームページに100周年記念特設ホームページを開設し、順次会員の皆様にお知らせいたします。

令和5年度 牧陵会役員・幹事等名簿

《役員、会計監査、相談役、顧問、参与、幹事》

【任期】役員、会計監査及び幹事の任期は、2022年6月1日より2年間です。

役職名	氏名	卒業期
会長	池田 加津男	高校21期
副会長(兼任解除)	向井 信一	高校21期
事務局長(新任)	木村 徹	高校21期
会計監査	林田 政義	高校15期
会計監査	浦邊 剛至	高校30期
相談役	鈴木 正次	高校11期
相談役	峯嶋 利之	高校12期
相談役	山下 東洋彦	高校13期
顧問	秋山 晶子	校長
顧問	村井 仁史	副校長(新任)
顧問	中川 崇寛	教頭
参与	石井 清	高校12期
参与	深海 なるみ	高校15期
総務部会長(新任)	美濃 一代	高校22期
総務部会副会長(前事務局長)	浅見 哲治	高校15期
総務部会幹事	徳永 福次	高校17期
総務部会幹事	斎藤 順受	高校18期
総務部会幹事	豊田 均	高校18期
総務部会幹事(新任)	森田 善乃	高校63期
会員部会長(新任)	小林 道昭	高校28期
会員部会副会長(新任)	田原 正崇	高校44期
会員部会幹事	佐武 洋	高校13期
会員部会幹事	岩井 功	高校21期
会員部会幹事	野村 良子	高校22期
会員部会幹事	平川 道子	高校22期
会員部会幹事	本多 真由美	高校39期
会員部会幹事	山崎 愛	高校46期
会員部会幹事	砂川 祐美	高校46期
事業部会長	中山 敏章	高校22期
事業部会副会長	市原 義国	高校18期
事業部会副会長	大澤 正道	高校23期
事業部会幹事	石井 清	高校12期
事業部会幹事	小島 和子	高校17期
事業部会幹事	雲田 憲	高校21期
事業部会幹事(新任)	中村 ひとり	高校26期
事業部会幹事	池田 亘	高校30期
事業部会幹事	吉野 丈仁	高校31期
広報部会長	小松崎 敏彰	高校21期
広報部会副会長	宮本 太郎	高校23期
広報部会幹事	佐藤 正彦	高校18期
広報部会幹事	乾 和夫	高校21期
広報部会幹事	富士崎 和雄	高校21期
広報部会幹事	片倉 正一	高校23期
広報部会幹事	宮田 昌樹	高校27期
広報部会幹事	陳 肇文	高校31期
広報部会幹事(新任)	丸 茂健一	高校44期
牧陵校史資料室運営部会長(新任)	片倉 正一	高校23期
牧陵校史資料室運営部会長(新任)	浅見 哲治	高校15期
牧陵校史資料室幹事	池田 加津男	高校21期
牧陵校史資料室幹事	向井 信一	高校21期
牧陵校史資料室幹事	石井 清	高校12期
牧陵校史資料室幹事	深海 なるみ	高校15期
牧陵校史資料室幹事	林田 政義	高校15期
牧陵校史資料室幹事	美濃 一代	高校22期
牧陵校史資料室幹事	森田 善乃	高校63期
牧陵校史資料室幹事	小林 道昭	高校28期
牧陵校史資料室幹事	田原 正崇	高校44期
牧陵校史資料室幹事	中山 敏章	高校22期
牧陵校史資料室幹事	市原 義国	高校18期
牧陵校史資料室幹事	大澤 正道	高校23期
牧陵校史資料室幹事	小松崎 敏彰	高校21期
牧陵校史資料室幹事	宮本 太郎	高校23期
牧陵校史資料室幹事	松澤 俊朗	高校20期
牧陵校史資料室幹事	手塚 一昭	高校21期

《常設委員会・実行委員会》

委員会名	委員長氏名	卒業期
同期会幹事委員会 委員長	岩井 功	高校21期
ホームページ管理委員会 委員長 (ホームページ管理者)	小松崎 敏彰 (宮本 太郎)	高校21期 高校23期
牧陵・緑のフェスティバル実行委員会	中山 敏章	高校22期
牧陵青春かながわ校歌祭実行委員会	市原 義国	高校18期



令和5年度着任挨拶 副校長 村井 仁史



牧陵会会員の皆様、初めまして、4月に副校長として着任しました村井仁史と申します。よろしくお祈りいたします。

横浜緑ヶ丘高校は、神奈川県教育委員会や国から様々な指定を受け、将来日本や国際社会でリーダーとして活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

リーダーとなるべき人材育成に向け、学校の取組だけでなく、保護者の皆様、地域の皆様、そして卒業生である牧陵会会員の皆様の温かく多大なお力添えを受けていることを、痛感しております。

また、今年で創立百周年という大切な時期に着任したことは大変名誉に感じるとともに、百周年の様々な取組の成功に向け、皆様とともに精一杯務めたいと感じておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

離任あいさつ 前副校長 小林 恵里子



4月1日付で厚木高等学校に異動となりました。在任中は大変お世話になりました。ありがとうございました。

牧陵会の皆様には、学校運営協議会や学びの奨励基金運営協議会等を通して、生徒のため学校のためにいつも多大なご支援、ご助言をいただきました。常に頼もしく見守ってくださったことに心から感謝しています。

横浜緑ヶ丘高等学校は今年創立100周年という大きな節目を迎えました。また、昨年度からはスーパーサイエンスハイスクールとして教育活動の幅を広げ、全国のSSH校の一員として新たな一歩を踏み出しています。大きなエネルギーと可能性を持つ緑高の更なる発展に向けて、これからも変わらぬご指導、ご支援をお願いいたします。

進路状況一覧

卒業生の現役時における進路状況 (過去3年間)

類別	2022年度卒業生(75期)	2021年度卒業生(74期)	2020年度卒業生(73期)	
4年制大学	国公立	39	73	66
	私立	192	162	168
	計	231	235	234
短期大学	0	0	0	
大 学 校	0	0	2	
海 外 の 大 学 等	1	0	0	
専 門 ・ 各 種 学 校 等	4	2	2	
就 職	0	0	0	
進 学 準 備 等	38	41	37	
当 該 年 度 卒 業 生 計	274	278	275	
進 学 率 (%)	86.1%	85.3%	86.5%	

横浜緑ヶ丘高校教職員異動状況

転出 (令和5年3月31日)			転入 (令和5年4月1日)		
教科等	氏 名	新任校	教科等	氏名	前任校
副校長	小林 恵里子	厚木	副校長	村 井 仁 史	光陵
数学	田 中 直 伸	七里ガ浜	国語	宮 本 梨 湖	新採用
保体	木 下 幸 典	川崎	国語	渡 邊 絵 美 子	横浜旭陵
養護	赤 澤 夏 嘉	保土ヶ谷	日本史	慶 長 諭	横浜修徳館
国語	池上(森川)紗也香	旭	数学	石 野 弘 明	新採用
国語	宇 藤 くるみ	永谷	物理	猪 俣 俊 介	新羽
国語	友利(田中)美美	城郷	保体	坂 東 あ づ さ	新採用
生物	赤松(小山)聖羅	退職	家庭	田 村 悠	高校教育課
物理	板 橋 和 政	退職	養護	青 木 知 勉	川崎
保体	久 保 一 也	逗子葉山	国語	斎 藤 克 也	横浜栄
家庭	森 脇 美 津 子	釜利谷	数学	齋 井 正 隆	鶴見
国語	井 上 聡 宏	新栄	保体	山 村 淳 一	市が尾
国語	太 田 三 枝 子	鎌倉	生物	門 田 壽 子	岸根
数学	赤 松 直 樹	霧が丘	地理	勝 山 雅 法	新・非常勤
社会	畠 山 崇	退職	保体	石 橋 克 新	新・非常勤
英語	佐 藤 扶	退職	英語	渋谷 紀 代 子	新・非常勤
家庭	大 竹 寿 子	退職			

◆継続して緑ヶ丘高校で再任用、臨時任用の場合は掲載を省略しました。

令和4年度 部活動活動実績

	大会・コンクール等	結 果
サッカー	5月 神奈川県総体予選	2回戦出場
	7月 神奈川県選手権予選(1次予選)	出場
	6~10月 U-18リーグ	リーグ7位
	1月 横浜地区冬季大会	優勝
硬式野球	7月 令和4年度 全国高等学校野球選手権 神奈川大会	3回戦
	9月 令和4年度 秋季神奈川県高等学校野球大会 地区予選	出場
ラグビー	第70回関東高等学校ラグビーフットボール大会 神奈川県予選	出場(合同チーム)
	神奈川県高等学校総合体育大会ラグビーフットボール競技(7人制大会)	出場(合同チーム)
	第102回全国高等学校ラグビーフットボール大会 神奈川県予選	出場(合同チーム)
硬 式 テ ニ ス	神奈川県高等学校ラグビーフットボール新人大会	出場(合同チーム)
	4月 神奈川県高等学校テニス大会予選 個人	出場
	4月 神奈川県高等学校テニス大会 団体	出場
	7月 横浜地区テニスリーグ大会	女子4部出場、男子5部準優勝
	8月 神奈川県高等学校新人テニス大会予選 個人	出場
	10月 神奈川県高等学校新人テニス大会 団体	出場、男子2回戦進出
ハ ボ ン ド ル 子 男	1月 横浜ジュニアテニストーナメント大会	男子1名本戦出場、男子1名本戦2回戦進出
	3月 シーサイドカップ 臨海地区テニス大会	出場、3年男子単複優勝
	3月 横浜地区テニストーナメント大会	出場、男子2回戦進出
	4月 第69回関東高等学校ハンドボール大会 神奈川県予選	出場
ハ ボ ン ド ル 子 女	5月 令和4年度全国高等学校ハンドボール選手権大会 神奈川県予選	出場
	9月 令和4年横浜地区高体連秋季大会	出場
	10月 令和4年神奈川県高等学校ハンドボール新人大会	2回戦出場
	1月 令和4年度県選手権大会	2回戦出場
バ レ ョ ン 子 男	4月 令和4年度 横浜市市民体育大会	出場
	4月 令和4年度 関東高等学校バレーボール大会 神奈川県予選	県予選会出場
	6月 令和4年度 神奈川県高等学校総合体育大会	出場
	4月 令和4年度 横浜市市民体育大会	出場
バ レ ョ ン 子 女	4月 令和4年度 関東高等学校バレーボール大会 神奈川県予選	地区予選会出場
	6月 令和4年度 神奈川県高等学校総合体育大会	出場
	5月 令和4年度全国高等学校総合体育大会	県大会出場(男子:4×100mR、110mH、400mH)
陸 上	9月 令和4年度神奈川県高等学校新人陸上大会大会	県大会出場(男子:110mH、400mH)
	9月 第9回ISOGOダンスまつり UNDER22の部	出場
ダ ン ス	日本テレビ「スキル」【ひとつになるうたS ONEプロジェクト22 全国高校生応援プロジェクト】	参加
	12月 マイナビ HIGH SCHOOL DANCE COMPETITION 2023 EAST Vol. 2	出場
	12月 第15回日本高校ダンス部選手権 冬の公式大会(パルメータメント 東日本大会)	出場
	1月 第30回神奈川県高等学校ダンス新人大会	出場
	3月 KSDCこうなんストリートダンスパフォーマンスフェスティバル2023	3チーム本選出場
卓 球	3月 第16回日本高校ダンス部選手権 春の公式大会 新人戦 東日本大会	スモールクラス出場
	令和4年度神奈川県高校総体兼全国高校総体 神奈川県予選	3回戦進出
	令和4年度神奈川県高等学校卓球新人大会 男子シングルの部	県15位
	令和4年度神奈川県高等学校卓球新人大会 女子シングルの部	県ベスト32
吹 奏 楽	横浜 市 年 別 大 会 男 子 シ ン グ ル ス 高 校 2 年 の 部	準優勝
	7月 横浜吹奏楽コンクール高等学校A部門	金賞(1位)
	8月 神奈川吹奏楽コンクール高等学校A部門	金賞、朝日賞(最高賞)
	9月 東関東吹奏楽コンクール高等学校A部門	銅賞
	11月 全日本高等学校吹奏楽大会in横浜	審査委員長賞
書 道	12月 神奈川県アンサンブルコンテスト 木管三重奏	銀賞
	第53回神奈川県高等学校教育書道コンクール	団体の部 優勝(神奈川県知事賞) 個人の部 最優秀賞(神奈川県教育委員会賞、奨励賞)
棋 道	神奈川県高等学校文化祭 第59回高等学校書道展	特選
	第31回全国高等学校文化連盟将棋新人大会 県予選	出場
ス ケ ー ト	第31回全国高等学校文化連盟将棋新人大会 全国大会女子個人戦	高橋千穂子出場
	1月 第72回全国高等学校スケート競技選手権大会 フィギュア競技	沼田有樹(1E) 32位
ク イ ズ 研 究	7月 第42回全国高等学校クイズ選手権 全国予選	出場
	9月 日本土壤肥料学会 東京大会 高校生 の 部	ポスター発表
化 学 生 物 部	11月 日本学生科学賞 神奈川県作品展	ポスター発表
	3月 高校生サイエンス研究発表会2023	ポスター発表(審査中)



母校100周年 記念募金の概要



大正12年(1923年)に神奈川県立横浜第三中学校として創立され、横浜第三高等学校を経て、現在に至る横浜緑ヶ丘高等学校は、令和5年(2023年)に創立100周年を迎えました。

令和6年(2024年)には新体育館が建設され、記念式典を行う予定です。

牧陵会、後援三徳会、学校の三者からなる横浜緑ヶ丘高等学校100周年事業実行委員会では、新体育館の諸施設の整備、教育環境整備支援を主たる目的として記念募金の活動を実施することといたしました。

100周年記念募金 概算予算(案)				(単位:千円)
収入の部		支出の部		
学校募金	三徳会	15,000	記念式典	1,000
募金	牧陵会	50,000	教育環境整備	35,000
	一般募金	(15,000)	記念式典・アトラクション	
	まなびや募金	(35,000)	設備品	
			記念誌	10,000
			記念イベント	4,000
			祝賀会、演奏会、美術展	
			冠・後援事業	1,000
			学校行事での特別企画、学校外企画	
			記録・広報	5,000
			広報、記念品	
			記念募金	5,000
			募金関係事務費	
			本部事務局	3,000
			交通費、雑費	
			予備費	1,000
			支出計	65,000
	取入計	65,000		

◆募金の概要

- ・募金目標は5,000万円を目標としており、上記のような用途にて役立ててまいります。
- ・一般募金(記念誌や記念式典、諸行事を対象とする:税控除なし)とまなびや募金(神奈川県が行う基金で、緑高の教育環境整備を対象とする:税控除あり)の2種類の募金を行います。
- ・どちらの募金も必要と考えており、それぞれの違いをご理解いただき、ご寄附いただければ幸いです。

◆募金の払込はゆうちょ銀行「払込取扱票」でお願いしています。

募金の払込には種別区分(一般募金とまなびや募金)のため、ゆうちょ銀行の「払込取扱票」での払込をお願いしております。会員の皆様にはお願い書をお送りしているところですが、お手元がないという方は牧陵会事務局にFAXまたはホームページ問合せ欄にてお申し出下さい。事務局より送付させていただきます。

※事務局は週2日(火・木)のみの開所となっておりますので、電話対応はご遠慮願います。

●過去の周年事業

過去の周年記念誌などから、母校創立からの周年記念式典・事業を調べてみました。

- ① 大正12年4月、第1回入学式が、横浜高等工業学校講堂で行われた。
- ② 創立記念日が5月17日であるのは、昭和2年5月17日の校舎落成披露式を記念して定められた。
- ③ 第1回創立記念日は、翌昭和3年5月17日に行われた。
- ④ 創立10周年記念行事は、昭和8年10月29日に校庭で、記念式典と記念運動会、ラッパ鼓隊の吹奏に合わせて開兵分列行進が行われた。記念事業として、①校庭に、国旗掲揚の柱が新設。②拡声器の設置。③ラッパ鼓隊の編成が行われた。記念品として、生徒には、三中マークをつけたいぶし銀のバックルが配られた。記念事業の一環として、12月15日に、陸軍大将を招聘して、開兵分列と講演会が行われた。
- ⑤ 創立20周年記念行事は、昭和17年5月17日に、母校講堂で行われた。

記念品として、生徒には、当時貴重品であった藁半紙と鉛筆が配られた。同月19日には、戦死病死同窓生の慰霊祭が行われた。同月22日、鉄条網が張られた校庭で、記念運動会の中で戦闘教練が行われた。

- ⑥ 創立30周年記念行事は、占領軍に接収されていた運動場が返還され、整地が終わったばかりの昭和28年10月22日に、体育祭が行われた。記念式典は11月5日、母校体育館で行われた。①校旗が調製された。②詩歌研究部作詞の新校歌が合唱部から披露された。翌日に、文化祭が行われクラブ14部が参加した。翌々日に、国会図書館長を招いて、体育館で、「道徳から見た憲法」と題して、民主憲法を講演された。
 - ⑦ 創立40周年記念行事は、昭和38年11月1日に、母校体育館で行われ、来賓として、藤村初代校長が出席された。
- 記念事業として、プール・図書館・生徒会館が竣工・着工された。校歌のフォノシートが作られ希望者に販売された。雑誌「牧陵」は、「創立40周年記念号(復刊17号)」として発刊された。
- ⑧ 創立50周年記念行事は、昭和49年5月18日に、新築された体育館兼講堂で行われた。記念品として、全生徒にボールペンが配られた。記念事業として、後援三徳会と牧陵会別々に、募金を呼び掛け、体育館のフロアシート、ステージ幕、放送設備、照明設備、記念誌印刷費、式典費が支出された。

- ⑨ 創立60周年記念行事は、昭和58年11月5日に、県民ホールで行われ、アトラクションとして、芸術鑑賞、東京混声合唱団による合唱が行われた。記念事業として、後援三徳会から810万円、牧陵会から400万円支出し、生徒会館内に、シャワー室の増改築、60周年記念誌の刊行がされた。
- ⑩ 創立70周年記念行事は、牧陵会主催の記念演奏会が、平成5年6月27日に、県立音楽堂で行われた。記念式典は平成5年10月16日に、県民ホールで行われ、アトラクションとしてN響団友オーケストラの演奏がされた。祝賀会は、ホテルニューグランドで行われた。写真を主体とした、記念誌「横浜三中・三高・緑高70年の歩み」を発刊した。記念美術展は、10月14～19日、横浜松坂屋カトレアサロンで行われた。

募金目標は、1,200万円但实际上は1,230万円集まり、教育機材整備として母校へ800万円、募金経費300万円差額130万円を牧陵基金に繰入れた。

- ⑪ 創立80周年記念行事は、平成15年11月14日に、式典祝賀会が関内ホール・ロイヤルホール横浜で行われた。創立80周年記念誌「横浜緑ヶ丘この10年」が発行された。同月29日に、母校創立80周年記念牧陵コンサートが磯子公会堂で行われた。
- 母校創立80周年記念美術展が、翌年3月10日～16日、赤レンガ倉庫で行われた。記念事業として、母校校舎の冷暖房設備工事費の一部が後援三徳会学校基金から支出された。

- ⑫ 創立90周年記念行事は、平成25年8月に「コラボ音楽祭」が卒業生と現役生が一体となり、関内ホールで行われた。

10月に「第8回青春かながわ校歌祭」の実行委員長校として神奈川青少年センターで開催された。

翌年3月に新校舎(南館)が竣工し、「牧陵校史資料室」が、8月「牧陵・みどりのフェスティバル」で公開された。

11月に「90周年記念の集い」がみなとみらい大ホールにて開催され、90年の歴史を語る朗読劇が披露され、次いで東京佼成ウィンドオーケストラの芸術鑑賞が行われた。

11月に全50ページA4カラー版として90周年記念誌が発行された。記念募金は、平成25年10月より、翌年10月まで、1343名の有志の方から、約2,300万円集まり、校史資料室の整備、図書館のラウンジの更新、教育施設整備などが行われた。

以上、周年行事を振り返りましたが、その時代が反映され、先輩方の母校に対する愛着をあらためて感じました。



緑の丘のものがたり ～横濱三中、三高、緑高のあゆみ～

開校

大正12年4月、県立横濱第三中学校は開校した。

校地も定まらず、校舎もない。他校に間借りをしての出発。



大震災と廃校の危機

その年の9月1日、横浜も壊滅させる大地震が起こった。

大きな災害にみまわれた横浜で、復興のため三中の校舎建設に金をかけることなどできないという声があるなか、横浜に新しい中学を、一日も早くという願いを実現したばかり、絶対に廃校になどさせるものかという思いは通じ、最初の廃校危機はまぬがれた。

校舎落成

大正13年12月 念願の校舎ができ、「緑の丘のものがたり」は、幕を開けた。

三中の校章は、「中」の文字を三つまとめ、「三中」をあらわしている。

校長は、三つの「中」を合わせた校章の形に意味をもたせ、「三徳一誠」を校訓とした。

校歌は、昭和2年5月17日、講堂の竣工をもってすべての建物が完成したのを期して挙行された校舎落成披露式で歌われた。

第1回卒業式は、昭和3年3月、入学時の150名の生徒が、大震災によって3分の2に減り、卒業生は88名であった。

第1期卒業生



三中の校章

牧歌的風景

校地周辺は田園風景。緑の多い自然が開け、畑や牧場が続く素朴で叙情的な眺めであった。



昭和8年ごろ(1933年)

戦争の足音

昭和13年には「国家総動員法」が成立し、国家のために統制されていた。

昭和16年、校庭の東側に高射砲陣地ができ、空襲に備え学校警備隊が編成される。

そして、12月8日、宣戦布告、太平洋戦争に突入。

ずっとA組・B組だった組の名前が、1組・2組・3組に。

遠足は、銃を担いで行軍にかわっていく。

戦争の影が次第に大きくなる中昭和18年3月に、緑の丘の三中は20歳を迎える。

校舎壊滅

昭和17年4月、はじめて日本本土にアメリカの爆撃機が来襲し、そして、戦況は悪化の一途をたどり、昭和20年5月、大空襲が横浜を襲う。焼夷弾の猛爆。一瞬で三中の校舎は火の海と化した。

三中の2度目の廃校の危機であった。

昭和22年には、横濱第三中学校復興会が結成され、知事へ、そして、敷地の返還についてアメリカ軍司令部に請願。

その後、校地の一部が接収解除され、校舎の建築の許可もおりることになった。

県予算も極度に窮乏しており、狭い敷地に木造の校舎が建った。

昭和23年、横濱第三中学校は、横濱第三高等学校と併設中学となった。三中の思いをこめ、校章も三中の校章の真ん中に「高」の文字を入れたものとなった。



横浜大空襲での根岸・本牧(横浜市史資料室所蔵空襲と震災資料、アメリカ国立公文書館所蔵)



復興そして新たな出発 男女共学

昭和25年、横濱第三高等学校は、横浜緑ヶ丘高等学校に校名が変わり、男女共学となる。

昭和28年には、創立30周年を迎える。

30周年は、創立以来、幾多の困難を乗り越え、これからの学園建設に向かう思いを新たに作る契機でもあった。

新しい校歌も制定された。校歌の作詞は、本校の詩歌研究部。

新校舎の落成 充実する環境

多くの人の献身的な努力によって、昭和31年から、校舎の増改築が始まり、昭和35年には、新校舎落成記念式典が行われた。

さらに、40周年記念事業として、図書館、プール、そして、待望の生徒会館が落成する。



高校紛争へ

昭和40年代はまた、高度経済成長の中で、次第に社会に軋みの音が立ち始めていた。70年安保にむかって、学生の運動が盛んになり、高校にもその影響が広がった。緑ヶ丘も学園紛争にまきこまれていく。

制帽の問題、生徒主体の講演会の開催をめぐる問題、新聞記事となった卒業式における君が代斉唱拒否騒ぎ、修学旅行の船の中での生徒からの団体交渉などがおこる。

学園紛争時の期末試験粉碎の垂れ幕(昭和45年1月)



緑高の姿を求めて

紛争後「生徒手帳」がなくなり、学帽をかぶる生徒は皆無に近く、鞆、靴は自由。髪型の規定もなく、服装規定も昔とくらべれば大きく変わった。受験のための補習も校内実力テストもなく、日々の授業も受験の色はなく、高校は大学の予備校ではない、本来の姿をめざす努力が重ねられていた。

総合的な学力を求めて

90年代前半、期待されていた新校舎建築は残念ながら実現されなかった。代わりに西館のリフレッシュ工事が行われ、鉄の窓枠もアルミサッシになり、明るい校舎となった。

平成12年度から、県立高校の改革推進計画がスタートし、県立高校50校が25校に再編統合された。

緑ヶ丘は、「総合的な学力伸長」の実践研究校の指定を受け、「社会のリーダーとなる人材の育成をめざしたバランスのとれた学力の養成」に取り組むこととなった。

平成17年度、学区が撤廃され、緑ヶ丘にも幅広い地域から生徒が入学するようになる。

そして平成22年、緑ヶ丘は「学力向上進学重点」とさらに「理数科学教育」の指定校に選ばれた。

新校舎完成、そしてSSHに選ばれる

平成26年3月、待望の新校舎が完成した。ついで、本館と北館にあった管理系の部屋と特別教室を西館に移動するという改修工事が行われた。

そして令和4年3月末に、文部科学省が指定する「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」に選ばれた。令和4年度から5年間、将来の国際的な科学技術人材の育成のため、教育課程の研究開発を進めることとなる。

新たな旅立ちにむけて

本館と北館が解体され、跡地にかねてから要望していた新体育館が建設されることになった。創立記念式典は新体育館の完成披露に合わせて、ここで開催される。緑ヶ丘100年の歩みは、多くの人々の思い出と、緑ヶ丘を愛する人たちの支援によって支えられている。

(本略史は90周年の時に元校長田中先生が校史資料室展示用パネル作成された「緑の丘のものがたり」から要約して、90周年以降の出来事を片倉さん(高23期)に追加作成、まとめていただきました。)



三中・三高・緑高 活躍する卒業生リスト

母校創立100年、三中、三高、緑高を卒業して活躍している同窓生としては、文化・芸能、学術・研究、マスメディアまで多岐にわたっております。

インターネットのWikipediaでは50余名の方々が一覧され、朝日新聞の「青春スクロール」、ダイヤモンド・オンラインの「日本を動かす名門高校人脈」で各界でご活躍の方々を紹介されました。また、緑のフェスティバルの講演会、緑高セミナーでの講演者も各方面の活躍の方々が発言に立られています。その中の一部を紹介いたします。

岩田 一男	中学1期	ラジオ英会話、英単語の多数の著作。
松山 善三	中学16期	映画監督、違いの分かる男のCM
佐野 浅夫	中学16期	俳優、テレビドラマ「水戸黄門」3代目
佐藤 さとる	中学18期	作家、「コロボックル物語」
吉田 栄夫	高校1期	自然物理学者、南極観測50年
小玉 武	高校8期	編集者、文筆家。サントリー「洋酒天国」編集
篠崎 義昭	高校14期	音楽家、牧陵合唱団
小島 一平	高校15期	バドミントン選手、高校総体の男子シングルスでは2位、世界選手権で活躍
デーブ 平尾	高校15期	ゴールデンカップス
鈴木 幸一	高校17期	IIJ会長、文化功労者2022
井田 邦明	高校21期	舞台演出家、演劇教育者
相原 道子	高校26期	横浜市大学長
後藤 圭	高校26期	劇団かかし座 代表
平沢 正規	高校26期	天文学者、教員、「緑高地学」小惑星命名
室井 三紀	高校29期	琵琶奏者、90周年式典朗読劇
清元 栄吉	高校34期	三味線方
岩佐 英二	高校35期	NHKアナウンサー、相撲実況中継
嶋川 太郎	高校35期	音楽家、バリトン。
織井 優佳	高校35期	朝日新聞記者
吉田智誉樹	高校35期	四季代表取締役社長
吉田 俊輔	高校41期	ハーモニカ奏者、国際ハーモニカコンテスト第2位
萬年 一剛	高校42期	火山学、温泉地学研、「ブラタモリ」出演
クリス 智子	高校42期	ラジオパーソナリティ
藤澤 秀行	高校43期	アルケリスCEO、アシストスーツ開発
木村 草太	高校51期	憲法学者
関 聡志	高校55期	外科医、「国境なき医師団」で活動

本紙では「青春スクロール」「日日は好日」のページで、会員の皆様の活動を紹介していきますので、各方面からの投稿お待ちしております。



吉田 俊輔 (高41期)



萬年 一剛 (高42期)



藤澤 秀行 (高43期)



木村 草太 (高51期)



平沢 正規 (高26期)



織井 優佳 (高35期)



同期会だより

■ 中19期 いっなし会

飯塚 雅也 (中19期)

牧陵新聞第44号の記事で「戦時の三中」懐かしく拝見いたしました。ただ記事の中に19期が無かったので中学19期「いっなし会」について少々書かせていただきます。

我々は太平洋戦争(当時は大東亜戦争と称していた)開戦の昭和16年(1941)に入学し、終戦の昭和20年に卒業、と戦争の爲に卒業を1年繰り上げ、4年生で5年生の18期と同時に卒業することになり、襟章に最上級生のVのバッジをつけることは無かった。進学は勿論のこと全てが2年分一緒なので大変でした。

戦後の混乱の中加木好之会長が同期会結成に尽力されました。そこで会の名前を付けようと考えた結果五年が無かったので「いっなし会」に決定。従って18期の「いっばち会」とは卒業後も慰霊祭や海外旅行や飲み会なども合同で行うなど親しく交流して参りました。

ただ残念なことに私たちの核として常に平静に、穏やかに、また絵筆持つ趣味人としても確固たる地位と作品を遺された加木会長は平成30年9月29日逝去されました心よりご冥福をお祈りいたします。また次の二首を辞世として遺されています。

いっなしの友とくみかう盃の 尽させぬ酒の 味の豊かさ
いっなしの会に流れる和の風の 八十路を過ぎて実に深まる
以後月に1回の昼食会を続けていましたがコロナの爲中断。

「いっなし会」をさらに詳しく見たい場合は、「旧制県立横浜三中いっなし会」と入力、続いて「いっなし会の画像をすべて見る」をクリックして下さい。



■ 第44期卒業生がメモリアル同窓会を開催 30年ぶりの宴に159名の旧友が大集合

加藤 卓也 (高44期)

2023年3月18日(土)、JR横浜駅西口のHOTEL THE KNOT YOKOHAMAにて、YOKOHAMA緑ヶ丘高校第44期同窓会を開催しました。44期の同窓会は2回目になりますが、前回の同窓会からは20年も間が開いてしまいました。

今回の同窓会は、インターネット上に専用サイトを開設(同窓会支援業者に依頼)して情報発信、出欠確認などを行いました。

1人でも多くの旧友を集めるべく、SNSなどを駆使し、情報の拡散を図りました。結果、幹事団の想定を超える159名の旧友が集まり、また鈴木芳明先生、神山康彦先生、北原次郎先生、多賀潔先生の4名が列席し、同窓会に華を添えていただきました。

3時間の宴でしたが、3年次のクラスごと、部活動ごとの集合写真を撮るなど、とても盛り上がった同窓会となりました。引き続き2次会も行いましたが、この会にも旧友と先生を合わせ100名弱の出席があり、夜遅くまで尽きることのない話に、改めて44期の絆を再認識する1日となりました。

第44期同窓会 幹事長 加藤卓也(西柴中学校出身)



■ 68期メモリアル同期会開催

白瀬 剛 (高68期)

2022年9月17日、横浜ハンマーヘッド内「コロナアルビーチ」にて、高校68期の同窓会を開催いたしました。

同期が一堂に会するのは、2018年の成人の日以来約4年半ぶりでした。コロナ禍もあり、卒業5年のメモリアル同期会の開催ができなかった中で、各クラスの当時の組長や仲間同士で声を掛け合い、卒業6年半後に開催をすることができました。

当日は生徒約65人、先生お2人、さらに池田会長にもご参加いただき、また惜しくもご参加が叶わなかった先生方からもビデオメッセージを頂きました。近い友達同士ですらなかなか会う機会が限られていた世の中で、同期や先生方との久々の再会を喜び合い、店内には懐かしい空気が流れていました。

10年、20年と続いていく同期との繋がりを、今後も大切にしていきたいと感じられる素敵なひと時でした。

改めまして、今回こうしてメモリアル同期会を開催できたことに多大なる感謝を申し上げます。

ありがとうございました!



■ 高73期 成人を祝して

江連 賢太郎 (高73期)

成人を祝して1月8日(日)に横浜緑ヶ丘高校73期の同窓会が開かれました。当時私たちにかかわってくださった先生方、及び牧陵会会長も来てくださり、総人数は230人近くになりました。2年ぶりの再会はとても盛り上がり、大盛況のうちに幕を閉じました。

会場となったはまボールイアス『ペノア』は横浜駅から約徒歩5分ととてもいいロケーションにあり、雰囲気もとてもよかったです! 当日もつつがなく進行され、中盤ではいらしてくださった先生方に花束を渡した際には激励の言葉をかけていただきありがとうございました。他にも、高校以来なかなか会えなかった友人に会うことができたり、また高校時代に話すことがなかったような同級生と新たな友人関係の構築に成功したりするなど、普段とはまた違った体験を味わうことができとても特別なひと時になりました。

いくつかのクラスはこの同窓会の後日クラス単位で個別の同窓会を開くクラスもあったようです。これから同窓会を開く方々はできるだけ同級生を集めてにぎやかなものにするをお勧めします!

73期は今のところ新たに同窓会を開くという予定はありませんが、またいつか皆さんに出会えることを楽しみにしています。



リベンジ同期会開催予定

3年間のコロナ禍において開催できなかった同期会を開催する予定がありましたら、事務局までお知らせください。ホームページで告知しましょう。

- 高校13期 卒業60年・喜寿メモリアル(2021年に企画、2024年予定)(幹事:山下)
- 高校21期 古希メモリアル(2020年に企画、2023年11月21日に開催予定)(幹事:小松崎)
- 高校24期 古希メモリアル(2022年に企画、2023年10月8日に開催)(幹事:黒崎)



同好会だより

■ 展開する絵画のシンフォニー 降幡 俊夫 (高7期)

第18回緑樹会絵画展は4月26日から5月2日まで恒例の杉田劇場ギャラリーで開催された。新参加の野村弘光、矢崎茂義両氏を含め、会員会友13名に新入生3名を加えた在校生8名の総勢21名が油彩15点、水彩16点、アクリル、鉛筆画など15点の合計46点の賑やかな作品の展示を行った。来場者も300名を超す盛況であった。

例によって大人はリアリズム指向の作品が、若い生徒は心の内を表現した作品が多く、これらの作品がバランスよく展示された。同窓という絆で結ばれた90歳から10代までプロを含めての幅広い世代の絵画のシンフォニーが会場一杯に繰り広げられたのである。

今回も学校、牧陵会、緑樹会三者の関係にいささかの緩みもなく、明年以降に展開される母校創立100周年の記念行事が楽しみになってきた。

校友、在校生の皆さんの中で作品をこの機会に展示されたいとお考えの方は、牧陵会事務局までお申し出下さい。

緑樹会絵画展関係者一同心からお待ちしております。



100周年への記念メッセージ

■ 三中全会での「錬成寮」の思い出

高倉 和夫 (中20期)

三中全会に入学して何ヶ月も経たない中で、上級生から聞いていた錬成寮での学習の日がやってきて、リヤカーに布団や1週間分の着換えなどを積んで体育館講堂に入りました。

これは林田校長(高15回、林田正義氏尊祖父 正徳先生)が山口県の師範学校に赴任された折、吉田松陰が開いた松下村塾の「塾式教育」に感化されて取り入れた教育指向の一環で、校長を始め担任の教師と1週間、24時間共に生活し、規則正しい生活のリズムを指導される修練の場であり、同時に校長先生自身が編集された「三中全会修養録」を教材とした訓話も行われました。

此の経験は多感な青春期に入り始めた生徒にとって、将来に向けて人間形成の一助になり得たのではないかと思います。

先生は後の回想記の中で、(生徒はよく勉強し、且つ行儀よく上品で、外部の人々から、横浜の学習院だとほめられた)と60年史に記録されています。100年の歴史の中の刷り込まれている良き生活の習慣は、その環境の中に身を置くだけで、知らず知らずの中に良い人間性に作られていく。これを伝統と云うならば、この100周年記念の日は、改めて自分を見つめ直す機会であるように思うのです。



■ 100周年に寄せて

重田 諭吉 (高24期)

創立100周年を迎え大変喜ばしく思います。早いもので、私が卒業して51年が経過しました。入学当時は大学紛争の火種が高校にも燃り色々なことがありましたが、今思えば懐かしい思い出ばかりです。私立理系のクラスにいた私は、国語と社会のどちらかで受験できる横浜市立大学になんとか滑り込むことができました。佐久間先生には受験前の冬休みに古典の特訓をして頂き感謝しております。

その後、大学に残り教員として過ごしていましたが、2002年に学校評議員制度が発足し、30年ぶりに委員として緑ヶ丘高校を訪れました。体育館は建て替えられていましたが、校舎は昔のまま、理科室には昔の机や棚がまだ置いてあり大事に使っておられるなどという印象でした。それがここ10年くらいの間に校舎の建替や図書館の整備が進み見違えるようになり、新しい体育館の建設も始まる様です。令和4年度からはスーパーサイエンス・ハイスクールにも採択され、より充実した教育環境のもと未来を担う人材を育てて行かれることと期待しています。



■ 緑の丘に

クリス 智子 (高42期) (ラジオパーソナリティ・エッセイスト)

2022年夏、用事のある先が緑高のすぐ近くとわかり、久しぶりに母校を尋ねてみたくなった私は、学校の裏手に車を留め、見学可能を電話で確認した30秒後に正門前に立っていた。夏休み中とあって、吹奏楽部の部員たちは自主練中。爽やかな不協和音が、空へと伸びる朝顔の蔓に絡みながら響いていた。体育館の前を通れば、バスケの低音のドリブル音とキュッキュッと鳴るシューズ。1階の廊下の窓から見える桜並木や学食へ続くグリーンの幌が張られた通り道は、とてつもなく懐かしさがこみ上げ、たしかに私はここにいた、と確信させてくれた。この風景の中、自分はどんな学生だったのだろうか。そんなことを思っていたところに、在校生が「こんにちはー」と元気に声をかけてくれた。ハッとした私も、あやしい者ではないと伝えるかのように「卒業生です!こんにちは」と咄嗟に返した。「そうなんですなー」と笑顔で一礼しながらすれ違ったのだが、この感じが緑高の気持ち良さだったと思い出す。ふらり寄ったわずかな時間に、高台の緑高に吹く夏の風は爽やかに心を撫でてくれた。こんないい風に吹かれていたのだなあ、とあの頃には思いもしなかった感慨にふける。高校の3年間は、濃密ながら、あつという間だったけれど、いつまでも、人生の深呼吸をさせてくれる大切な場所なのだ気づかされた。折に触れ、ふらり訪れることをおすすしたい。



■ 百分の三の思い出

降幡 俊夫 (高7期)

学校はスタートして100年、その間に学したのは3年。単に数字だけでは、取るに足らない比較になる。しかし、その中身を改めて振り返るとその何倍もの重みを覚える。

私の緑高への入学は1952年(昭和27年)。世の中は、まだ戦争の清算が済まず、学校の運動場も、進駐軍の蒲鉾兵舎に占拠されていた。

運動場が使えないので、体力を持って余している私たちは、休み時間になると校舎の横の空地で相撲を取ったが、ある日親友の古川和郎君から「柔道をやらないか」と誘われた。中学生の頃高校生達の柔道に憧れていた私は即座に賛成したが、学校には柔道場がない、聞くところによると占領軍のお達しで学校での柔剣道を公式にやるのは認められていない、とのこと。

仕方なく日の出町にあった英(はなぶさ)太郎氏の町道場に通うことになった。その内に山手警察や伊勢佐木警察の道場を使ってよろしいということになり、警察の皆さんと稽古をした。横浜は国際港があるだけに外国人の愛好家も寄港の折、話の種に寄ってくれ、彼らとも稽古した。時にはプロレスへ転向するという遠藤幸吉なども現れ、随分投げ飛ばされたものだ。

その内、世の中も徐々に変わり、高校での柔剣道が認められるようになり、上級の3年生達が柔道部を作り、誘われたが、受験勉強に追われ、名前だけの部員になってしまった。

今にして思えば、在学した3年間は、随所で日本の本格的復興の狼煙が上がった時期のようにも思われる。



■ 次の100年に向けて、 軽やかに羽ばたける人材輩出を

我妻 義一 (高44期)

「海苔弁山登り」という小さいながら都内駅中、商業施設などに
出店する弁当惣菜の会社を経営しています。現在、私の会社の顧
問弁護士は緑ヶ丘同期の鶴田くん。今回寄稿の依頼を受けた本誌
編集もやっている同丸茂くんはメディア企業を経営しており、公私
で結びついています。

軽やかなその校風は、さまざまなシーンで活躍する人材を輩出
してくれました。高校生という多感な時期に、得た友と言う財産
は、今後ある程度の空白があろうともその関係は続いていくこと
でしょう。

軽やかな校風が取ってしっ
かり私たちを結びつける。横
浜緑ヶ丘は100周年。次の
100年に向けて、軽やかに羽
ばたける人材を輩出してくれ
ることを願っております。



■ 高校時代の一番の思い出

丹呉(内田) 麻子 (高45期)

高校時代の一番の思い出は、金沢・白川郷修学旅行です。今思
えば、アクセスしづらい白川郷によくぞ高校生御一行を連れて
行ったものです。合掌造りに宿泊。広い板の間に布団を点々と敷
き、布団越しに小さな声でおしゃべりをしたことも良い思い出で
す。最終日、金沢で台風直撃に遭い帰路の足の確保に先生方が
走り回っていたことを記憶しています。修学旅行も行き先を生徒達が決める
という緑高の自由な校風の一つの例で
すが、自由から得られる体験の大きさはその後の貴重な武器となっていま
す。最後に。後輩の皆様、微かに海の
香りのする風が吹き抜ける丘の上の学
校で、今しかない時を大事に過ごして
ください。追記。毎年、桜の時期にな
ると緑高の桜が見たくなります。



■ かけがえのない仲間と充実した毎日

公門(辻谷)里美 (高47期)

私は緑高に入学してすぐにチアリーダー部に入部しました。当
時チア部は1つ上の先輩方が創立したばかりの新しい部活でした
が、先輩後輩の垣根を越えて仲良く和気あいあいとした、とても
居心地のいい楽しい部活でした。先輩達とは卒業してからも
しょっちゅう会っては、旅行したり、ハ
ワイのホノルルマラソンで一緒に完走
したり、ダイビングしたり、夜中まで将
来の夢を語り合ったり…大人になっ
ても共に青春を過ごしてきた、今で
もそれは変わらずです。緑高でのたく
さんの出会いや経験はきっとかけがえ
のないものになるはず。かけがえ
のない仲間と充実した毎日を精一杯楽
しんでください。



■ 人生と一緒に歩める『友』を見つけてほしい

宮田 崇 (高48期)

旅人のためのガイドブック『地球の歩き方』編集長として国内
外の魅力を伝える仕事をしています。緑高に入学してはじめて友
達になったのは、五十音順の座席でうしろに座った村上耕平。耕
平が3年時に同クラで親友になった牛田圭一と3人で20歳の頃イ
ンドを旅した。今は皆家族がいてな
かなか会えないが年1回飲んで夢を語
る。60歳になったら、インドをもう一
回旅しようと。大学に行くためにお勉
強するのは学習塾ですればよい。緑高
では人生と一緒に歩める『友』を見つ
けてほしい。それくらい緑高にはすて
きな仲間が集まる。ラグビー部の同期
前後ともいまだに語る。3年間担任だ
った東城先生、ビー部の顧問船木先生、
よき師と出会えたのも運命。



■ いずれ自分で道を見つけていくのが緑高生

野田 浩平 (高44期)

海外の大学院で認知科学を学び、現在はグローバルリーダー育
成やメンタルヘルスケアの仕事をしています。先日(2023年5
月)、30年以上ぶりにテニス部同期と病気で亡くなった同期の13
回忌で会いました。皆、社会や家庭のいろんな場所で活躍してい
ますが、性格は高校時代から変わらず、ツーカー(古い表現?)で
会話できるなど驚き。高校の頃は人生どんな風になるか想像もつ
かなかったけれど、辛いことや大変なことを経ても生きていればこ
んなに笑ってバカ話できるんだなと思
いました。高校の頃はみんな校則とか
ちゃんと守ってなくて、勉強もしたり
しなかったりだったと思うけれど、自分
で道を見つけていくのも緑高生の特徴
かなと思うので、後輩の皆さんにも人
生を思う存分、探索してもらいたい
と思います。



■ 緑高は、かけがえのない存在

田村 良 (高45期)

まずは、母校が100周年を迎えるにあたり、心よりお祝い申し
上げます。

2022年5月21日、私は妻をがんで亡くしました。

私たちには子どもがなく、また、私は両親を早くに亡くして妻に
外に身寄りがないので、妻は私の今後を心配し、私の高校の友人
に今後のことを頼みたいと希望していました。

妻が最も信頼を寄せていたのは、他の誰でもなく高校の友人で
した。葬儀等の際、高校の友人は、「最高の女性だった」と言って
唯々泣いてくれ、どんなお悔やみよりも心に響きました。

妻を失いましたが、私にはかけがえのない存在があることを深
く認識したのです。

在校生の皆さん。日々あるがままに3年間を過ごすだけで十分
です。そうすれば、緑高は、かけがえのない存在、真の友人を授
けてくれるでしょう。

2023年 ～日々是好日～

📍掲載記事にご興味のある方、就職活動・お仕事・趣味など、投稿者とお話してみたい方は、お気軽にお問い合わせください。

greencommunity1923@gmail.com

(担当：砂川、山崎：46期)

※連絡先記載の投稿者には直接連絡可能です

■ 横浜鶴屋町にて開業15年目。 岡本 悟史 (高52期)

緑高在学中には想像もしていなかった飲食店開業。大学卒業後に入社した会社を数ヶ月で退社、悩んだ末に飲食業の道へ。

在学中に苦楽をともにした野球部の仲間達が合コンをしている傍ら居酒屋でバイトをして資金を貯めました。

飲食店を経営しているとコロナも含め、山あり谷あり。自分と自分の店の存在価値を考え試行錯誤しながらも軸はブレずに。

今では先輩後輩問わず緑高OBOGもたくさん集まって頂ける店になりました。緑高生活で培った地道にコツコツ精神とたまにおふざけ馬鹿しながら楽しんでいきます。

緑高100周年おめでとうございます。



みんなのお店FUN 横浜店：0453242322
みんなのお店FUN 杉田店：0453535588
インスタ→lifeisfun.yokohama

■ いつ会っても楽しい緑高生 江副(伊藤) 遥 (高54期)

緑高100周年おめでとうございます。

高校時代はバスケットボール部に所属していました。当時の練習はきつかったですが(特に森林公園のダッシュ。そして緑高女子でおそらく唯一体育館ステージ裏のあのウエイトトレーニングを使っていた。。。体育館新しくなりなによりです!)、そのお陰か? 仲間との結束はとても強く、卒業して20年以上経つ今でも頻りに遊んでいます。

大学卒業後は横浜市役所に入庁。職場に緑高生がいることもよくあり、そういう時は不思議な心強さを感じています。

現在は2歳と0歳の子供がおり、育休中です。子供連れで緑高同期や先輩後輩と遊ぶことが増えました。また公園で卒業ぶりの奇跡の再会! なんてこともあり、嬉しいです。

緑高での出会いが、今でも私の人間関係の大部分を支えています。皆様ありがとう!

追伸 江副くんも元気です。



■ きれいな景色 齋藤 風香 (高63期)

最近読んだ小説のあとがきにこんな一説がありました。『思い出すだけで、勇気が出る、生命力が湧いてくる。「きれいな景色」とは、人生の中に訪れる、そういう景色のことだ。』

楽しくて夢中になった部活。その仲間と喧嘩したこと。大好きな先輩と話した時間。狭い楽器庫。壊れそうなトイレ。簡単だと聞いていた地理での赤点。在学中の思い出はぜんぶ、振り返れば「きれいな景色」になりました。

卒業後最近まで緑高に縁がなかった私ですが、1年前にシェアキッチンを経営を始めたことをきっかけに、これまた素敵な場所で緑高の先輩方との新しいご縁をいただきました。緑高は卒業後もきれいな景色の続きを見せてくれます。ありがとう。



■ 緑高食堂 今関さんご勇退

永年緑高生に愛されてきた緑高食堂の今関さんが3月いっぱいまで勇退されました。牧陵会から感謝状を贈呈いたしました。

緑高食堂は昭和41年(1966年)に当初、北館横に建てられ、1969年から現在の東館横に移設して営業され、高校21期以後の生徒には懐かしい場所であり、今関さんは創業時からお父様、ご主人とともに、またおひとりになっても緑高食堂を支えてこられました。75歳の今関さんはお元気の様子でした。

開業時のメニューは、うどん・そばが30円、定食・カレーライス・弁当が60円(緑高60年史より)で食べ盛りの生徒に大歓迎されました。コロナ禍において営業ができなかったのが唯一残念だったこと、「からおに」や「やきおに」の始まり・ネーミングは生徒から発案されたことや、いままで営業できたことを学校や卒業生の皆さんに感謝しますとお言葉をいただきました。

4月からは新しい業者さん「キッチンママ」が入られ、営業されています。今関さんの残した愛情が引き続き緑高食堂として残ることを期待します。



2022年度 寄付金納入者一覽 2022年度 1,495名 総額 3,628,600円 (敬称略、期別、会員番号順)

Table listing donors and their contributions, organized by period (e.g., 中15期, 中18期, etc.) and amount. Includes names, addresses, and contribution amounts.

事務局より

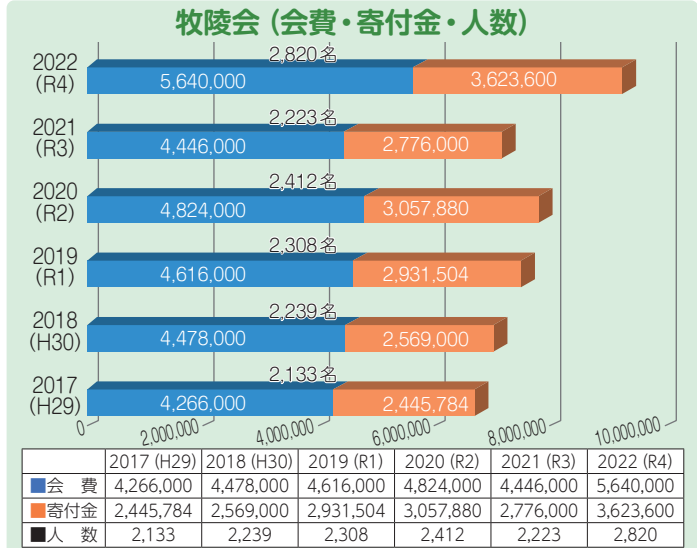
Project 2500

プロジェクト 2500 横浜緑ヶ丘高校の未来のために

牧陵会会費納入の現状について (2023年3月現在)

主に昨年の新聞発行の遅れによるずれ込みが主因とは思われますが、令和4年度の会費納入者は2,820名と目標を320名も上回る会費(前年比増+1,194,000円)及び寄付金収入(前年比増+852,600円)をいただきました。皆様のご協力に厚く感謝申し上げます。

次年度に向け更なる活動への足掛かりとなるようプロジェクト2500の運動を続けてまいります。皆様のご協力を切にお願い申し上げます。



【住所変更お届けのお願い】

牧陵新聞配布に宛先不明による返送の事態が発生しております。皆様からの住所変更のお届けが増え返送数は減少しておりますが、転勤などで住所が変わる30代世代が宛先不明になることが多いようです。新聞は皆様と結び大きなツールです。住所の変更は住居表示変更も含めお知らせいただければ幸いです。

◆住所変更届け出⇒ホームページからのお届け又はファックスにて牧陵会事務局へ連絡をお願いします(事務所の開所が火・木曜日のみとなっております、電話での対応は難しい状態です)。

2023年は同期会開催を! 恐れずに、ただし気を付けて 会員部会

◆同期会開催を計画しましょう (活動支援金の支給)

牧陵会の基本は親睦にあり、会員同士のつながりは同期会でのつながりが基本となります。会員の増加と会員情報の整備を目的として、牧陵会では同期会開催について1万円、特にメモリアル期の開催については5万円を支給して開催を支援しています(敬老感謝同期会には2万円)。

コロナ禍の3年間で開催中止を余儀なくされた期も、2023年には開催を計画されることを期待しております。

◆牧陵会の同期会開催に対する活動支援金の繰越認容について

3年間のコロナ禍において開催できなかったメモリアル同期会においても繰越して支援をできることとなっています。詳細については事務局にお問合せ下さい。

メモリアル同期会対象期 (通常1万円支援を5万円支援に)

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
卒業後2年 成人式メモリアル	73期 R3年卒	74期 R4年卒	75期 R5年卒	76期 R6年卒	77期 R7年卒	78期 R8年卒
卒業後5年 メモリアル	70期 H30年卒	71期 H31年卒	72期 R2年卒	73期 R3年卒	74期 R4年卒	75期 R5年卒
卒業後10年 メモリアル	65期 H25年卒	66期 H26年卒	67期 H27年卒	68期 H28年卒	69期 H29年卒	70期 H30年卒
卒業後20年 メモリアル	55期 H15年卒	56期 H16年卒	57期 H17年卒	58期 H18年卒	59期 H19年卒	60期 H20年卒
卒業後30年 メモリアル	45期 H5年卒	46期 H6年卒	47期 H7年卒	48期 H8年卒	49期 H9年卒	50期 H10年卒
卒業後42年 還暦記念メモリアル	34期 S57年卒	35期 S58年卒	36期 S59年卒	37期 S60年卒	38期 S61年卒	39期 S62年卒

敬老感謝同期会対象期 (通常1万円支援に敬老感謝金として1万円を加算して支援に)

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
古希 (70歳) 卒業後52年	24期 S47年卒	25期 S48年卒	26期 S49年卒	27期 S50年卒	28期 S51年卒	29期 S52年卒
喜寿 (77歳) 卒業後59年	17期 S40年卒	18期 S41年卒	19期 S42年卒	20期 S43年卒	21期 S44年卒	22期 S45年卒
米寿 (88歳) 卒業後70年	6期 S29年卒	7期 S30年卒	8期 S31年卒	9期 S32年卒	10期 S33年卒	11期 S34年卒

令和5年度牧陵会活動予定

2023年	6月 3日 (土)	令和5年度定時総会・懇親会
	6月 24日 (土)	緑高祭
	25日 (日)	//
	7月	スポーツ応援隊 (野球・サッカー)
8月	牧陵新聞「45号」発行	
10月 21日 (土)	第18回青春かながわ校歌祭 会場：県立青少年センター	
	11月	第22回牧陵・緑のフェスティバル (検討中)
2024年	1月	令和6年牧陵会新年のつどい
	1月	牧陵新聞「46号」発行

ご挨拶

新事務局長 木村 徹 (高21期)

21期木村徹と申します。この度牧陵会事務局のお手伝いをさせていただくことになりました。

現在まで14余年の長きにわたり事務局長を務められた15期浅見哲治先輩の後釜ということで、本年2月以来引継ぎ作業をいただいておりますが一般の営利事業とは異なり一味違う趣の作業内容に加え、もとより回りの悪い頭に年齢も加わって覚えの悪い私を根気よく教えてくださいました浅見先輩に深く感謝いたす次第です。これまでこういった事務の仕事の経験のない私に果たして務まるものか不安ではございますが、私なりに頑張っていきたいと考えております。つきましてはこれまでの皆様の牧陵会へのご支援に加え、より一層の事務局へのご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



事務局長退任のあいさつ (2023年6月)

浅見 哲治 (高15期)

この度の牧陵会総会で事務局長を退任します。高校15期の浅見哲治です。2009年6月の総会で事業部長から事務局長になりました。14年の間多くの方々のご支援を受けて、楽しく同窓会の事務をさせていただきました、ありがとうございました。

6月からは総務部会で事務の引継ぎを行うとともに、100周年事業のお手伝いをさせていただきます。

在任中一番の思い出は、中学期の先輩方から要望があった、卒業生の生活を記録する「校史資料室」を、南館建設の折に設けることができたことです。当時の田中校長の「学校の記録は生徒の記録」の一言で収集が進みました。

この頃は収集した資料で、扇町にあった旧事務局が狭くなりました。

追記 戦争による横浜大空襲で校舎が焼失したため、当時の学校の記録が極めて少ないのが残念でなりません。また、戦後は校庭が進駐軍に接収されたため、写真の記録がないのもやむを得ないと思いますが残念です。(当時の生徒の苦難の歴史「横濱三中・三高・緑高六十年史」を母校百周年で復刊します。)

なお、資料寄贈は常時受け付けていますのでご連絡いただければありがたいです。

牧陵会事務局の場所・連絡先

関内駅北口から海側(東)に徒歩200m「銀だこ」のビルです。

TEL/FAX: 045-664-9020

メール: bokuryoukai@gmail.com URL: 牧陵会.com

住所: 〒231-0014 横浜市中区常盤町3丁目24 サンビル6階C号

申し訳ありませんが、諸事情により事務局の業務は、火・木曜日とさせていただきます。